

4 運転士見習の技能講習に関する研究 —未修了者の低減に向けて—

武内 寛子 吉田 裕 中村 志津香

1 はじめに

運転士見習（以下、「見習」とする。）が現場配属後の技能講習で精神的・身体的な不調から未修了となるケースが毎年発生しています。動力車操縦者養成所（以下、「養成所」とする。）では学科講習中に見られた見習の性格等について配属先と共有することで、一人ひとりにあった技能講習に繋げる等、未修了者の低減を目指した取り組みを行っています。この取り組みをさらに効果的なものとするために、これまでの調査では、見習の性格や行動に関する特性のうち技能講習を修了するか未修了になるかに関係すると思われる34個の特性を用いて、現場区所の指導担当者に見習を評価してもらうことで、特に関係が見られた27個の特性（表1）を抽出しました。また、指導操縦者との人間関係が悪かった見習に未修了者が集中している傾向が見られました。今回の調査では27個の特性について評価者を変え、見習が修了するか否かに直接関わる項目と指導操縦者との人間関係に関わる項目の2つの観点からの分析を行いました。

表1 これまでの調査で抽出された27項目

項目		
1.見られていないところでも手を抜かない	2.ルールを守る意識が薄い	3.勤勉(努力家)である
4.情緒不安定である	5.要領が悪い	6.協調性がある
7.やる気がない	8.物覚えが悪い	9.素直である
10.忘れ物をすることがほとんど無い	11.時間管理はしっかり出来ている	12.叱られると落ち込む
13.決断力がある	14.リーダーシップをとっている	15.コミュニケーション能力が高い
16.積極的である	17.気が弱い	18.ネガティブ思考である
19.根気強い	20.同期とよく会話をしている	21.話をする時に目を合わせない
22.気遣いができる	23.プライドが高い	24.一点集中型で視野が狭い
25.活発である	26.突発事象に適切に対応できる	27.自分が考えていることをきちんと伝えられる

2 内容

これまでの調査では見習の配属先である現場区所の技能担当教師、指導担当係長が見習の特性について評価したデータを元に分析したため、そこから抽出された27項目は見習の現場区所での様子が反映されています。今回の調査では27項目が養成所段階においても有効な指標となっているか検証を行うため、養成所教師が学科講習中に見習を評価したデータを用いました。分析は、見習が修了するか否かに直接関わる項目と、指導操縦者との人間関係に関わる項目について行いました。

(1) 調査対象

養成所での学科講習を修了した 146 名の見習いを調査対象としました。このうち、最終的に技能講習を修了したのは 138 名、未修了となったのは 8 名です。

(2) 調査協力者

養成所教師 10 名（担任教師 5 名、副担任教師 5 名）に依頼し、受け持ちのクラスの見習い全員に対して表 1 の 27 項目の評価を行いました。その際に担任教師と副担任教師は別々に評価を行ったため、見習い 1 名につき教師 2 名からの評価が行われました。

(3) 調査方法

評価は 27 項目それぞれについて、1：全くあてはまらない～5：非常に当てはまるの 5 段階で行われ、不明な場合は 6：わからないを選択することとしました。見習いの性格面や行動面での特性をある程度把握できてから評価することと、学科試験の得点に 27 項目の評価が左右されないようにするため、学科の修了試験直前の時期（学科講習開始から約 3 ヶ月後）に評価することとしました。

(4) 見習いと指導操縦者の人間関係の評価

調査対象者の配属先である現場区所（20 箇所）の技能担当教師 37 名と指導担当係長 40 名に依頼し、自職場の見習い全員に対して、技能講習中の指導操縦者との人間関係の良し悪しを 1：かなり悪い～5：かなり良好の 5 段階で評価を行い、不明な場合は 6：わからないを選択することとしました。評価は技能講習の合否決定後できるだけ早い時期に行いました。

3 結果と考察

27 項目については見習い 1 名につき教師 2 名から評価されているため、両者の得点のうち悪い方を使用した分析と平均値を使用した分析を行いました。

(1) 見習いが技能講習を修了するか未修了になるかに影響する項目

① 悪い方の値を用いた分析

調査対象の 146 名のデータを分析した結果、悪い方の評価値を使用した分析からは「情緒不安定である」「勤勉（努力家）である」「素直である」「見られていないところでも手を抜かない」「同期とよく会話をしている」「気が弱い」の 6 項目が見習いの修了・未修了に影響する項目として抽出され、判別的中率（この分析の確からしさを示す指標）は 89.7%の 131 名でした。

判別係数（表 2）の符号は、プラスの値であればその項目に当てはまるほど未修了になりやすいこと、マイナスの値であればその項目に当てはまらないほど未修了になりやすいことを表しています。また、判別係数は絶対値が大きいほど影響力が強いことを表しています。

表 2 修了・未修了に影響する特性として抽出された 6 項目の判別係数

項目	悪い方の値を用いた分析	平均値を用いた分析
1 素直である	-0.572	-0.898
2 勤勉(努力家)である	0.632	0.600
3 見られていないところでも手を抜かない	0.464	0.513
4 情緒不安定である	0.642	0.706
5 気が弱い	-0.386	-
6 同期とよく会話をしている	-0.443	-

※判別係数の値がプラスの項目：当てはまるほど未修了になりやすい
判別係数の値がマイナスの項目：当てはまるほど修了しやすい

② 平均値を用いた分析

両者の平均値を使用した分析からは「素直である」「情緒不安定である」「勤勉（努力家）である」「見られていないところでも手を抜かない」の 4 項目が抽出され（判別係数は表 2 に示す）、判別率的中率は 87.7% の 128 名でした。

(2) 見習と指導操縦者の人間関係の良し悪しに影響する項目

① 人間関係の評価の分類

人間関係についても 27 項目の得点づけと同様に複数名からの評価が行われたため、悪い方の値と平均値の両方を算出しました。分析をするうえで、修了・未修了と同様に人間関係の良し悪しについても 2 つの群に分類する必要があるため、評価値が 1 から 3 未満だった場合は人間関係が悪いグループ、3 より大きく 5 以下だった場合は人間関係が良いグループとしました。その際に評価値が中間値である 3：どちらでもないとなった見習は分析対象から外したため、最終的に、悪い方の値を使用した分析では 122 名、平均値を使用した分析では 132 名が分析対象となりました。

② 悪い方の値を用いた分析

悪い方の評価値を用いた分析からは「気遣いができる」「勤勉（努力家）である」「叱られると落ち込む」「忘れ物をすることがほとんどない」の 4 項目が指導操縦者との人間関係の良し悪しに影響する項目として抽出され（判別係数は表 3 に示す）、判別率的中率は 69.7% の 85 名でした。

表 3 指導操縦者との人間関係に影響する特性として抽出された 8 項目の判別係数

項目	悪い方の値を用いた分析	平均値を用いた分析
1 忘れ物をすることがほとんどない	0.479	0.459
2 気遣いができる	-0.947	-
3 勤勉(努力家)である	0.507	-
4 叱られると落ち込む	0.503	-
5 突発事象に適切に対応できる	-	0.847
6 情緒不安定である	-	0.684
7 リーダーシップをとっている	-	-0.549
8 同期とよく会話をしている	-	-0.499

※判別係数の値がプラスの項目：当てはまるほど人間関係が悪くなりやすい
判別係数の値がマイナスの項目：当てはまるほど人間関係が良くなりやすい

③ 平均値を用いた分析

平均値を使用した分析からは「突発事象に適切に対応できる」「情緒不安定である」「リーダーシップをとっている」「同期とよく会話をしている」「忘れ物をすることがほとんどない」の5項目が抽出され（判別係数は表3に示す）、判別の中率は77.3%の102名でした。

表4 見習が技能講習を修了するか否かや指導操縦者との人間関係への影響力が強いと思われる11項目

以上、修了・未修了もしくは指導操縦者との人間関係への影響力が強いと思われる11項目について表4にまとめます。

「勤勉（努力家）である」「同期とよく会話をしている」「情緒不安定である」の3項目は修了・未修了と指導操縦者との人間関係の双方への影響が見られました。

「素直である」「気が弱い」「見られていないところでも手を抜かない」の3項目は修了・未修了への影響のみが見られました。「叱られると落ち込む」「気遣いができる」「忘れ物をすることがほとんどない」「突発事象に適切に対応できる」「リーダーシップをとっている」の5項目は指導操縦者との人間関係への影響のみが見られました。

修了・未修了に影響する特性をまとめると、「勤勉（努力家）である」「情緒不安定である」「見られていないところでも手を抜かない」に当てはまり、「同期とよく会話をしている」「素直である」「気が弱い」に当てはまらないほど未修了になりやすいと言えます。また、指導操縦者との人間関係に影響する特性をまとめると、「勤勉（努力家）である」「情緒不安定である」「叱られると落ち込む」「忘れ物をすることがほとんどない」「突発事象に適切に対応できる」に当てはまり、「同期とよく会話をしている」「気遣いができる」「リーダーシップをとっている」に当てはまらないほど人間関係が悪くなりやすいと言えます。

項目と影響の方向性	要注意の方向性(※)	修了・未修了に関連する特性	指導操縦者との人間関係に関連する特性
1 勤勉(努力家)である	+	○	○
2 同期とよく会話をしている	-	○	○
3 情緒不安定である	+	○	○
4 素直である	-	○	
5 気が弱い	-	○	
6 見られていないところでも手を抜かない	+	○	
7 叱られると落ち込む	+		○
8 気遣いができる	-		○
9 忘れ物をすることがほとんどない	+		○
10 突発事象に適切に対応できる	+		○
11 リーダーシップをとっている	-		○

※要注意の方向性が+の項目：当てはまるほど要注意(未修了、もしくは人間関係が悪くなりやすい)
要注意の方向性が-の項目：当てはまらないほど要注意(未修了、もしくは人間関係が悪くなりやすい)

4 まとめ

これまでの調査で抽出された27項目について、評価者を現場区所の指導担当者から養成所教師に変えて有用性を検証した結果、見習が修了するか否かや指導操縦者との人間関係に特に影響する項目として11項目が抽出されました。養成所教師が見習の特性を配属先へ伝える際に11項目を使用することで、特に気にかけて指導を行いたい見習についての丁寧な情報共有が可能となり、未修了となる見習の低減に繋がると考えられます。